

最近中国で発見された新鉱床

岸本文男(地質相談所)
Fumio KISHIMOTO

IX 吉林省で一大銀鉱床を発見

吉林省地質鉱産局第三地質調査所は四平市郊外の山門から赫満族自治郷にいたる一帯で 延長が10余 km に達する銀・金の鉱化帯を発見した。また試錐調査の途中であるが 鉱床の規模は大型の範疇に入り 総合的に回収可能な金・鉛などの有用成分を随伴している。この鉱床の発見はまた 隣接地区のかなり広い範囲が類似鉱床の探査対象になるという大きな展望を与えてくれた。

吉林省地質鉱産局は 9月下旬に専門家を組織してこの山門銀鉱床の現場を視察し 新たな調査・探鉱の経験を検討し 総括した。この銀鉱床の発見は 吉林省地質鉱産局第三地質調査所がそれまでの調査と探査の結果を基礎にして 新しい鉱床成因論を適用し 地球物理探査と地化学探査の機能を十分に発揮させ 得た情報を総合解析した成果である。

王祺 李述

(中国地質報 1986. 10. 6)

X 青海省徳爾尼の銅鉱床精査完了

徳爾尼はチベット語の音訳で「大きな山」の意である。徳爾尼銅鉱床は超塩基性岩体中において 鉱石は緻密・塊状で 銅・コバルト・亜鉛およびその他の多くの有用成分を含有した黄鉄鉱鉱石からなる。鉱体の規模は非常に大きく 最大の鉱体の延長は1,200mを越え 最も厚い部分は74mを越えている。鉱石は銅に富み 一般に銅品位は1%以上である。最近の探査によって明らかになったことは 徳爾尼銅鉱床が一つの大型銅鉱床であり 大型コバルト鉱床であり 中型亜鉛鉱床であり 一つの超大型硫化鉄鉱床であるという事である。随伴する有用元素としては 金 銀 セレン カドミウム ガリウム インジウムがある。金の鉱量だけをとってみても 大型金鉱床の場合をはるかに越えている。鉱石は可選性試験に供されたが 主成分である銅の選鉱実収率と選鉱精鉱品位は要求される規準値に達している。鉱床の賦存場所は比較的浅く 鉱体のかなりの部分は露天掘りが可能である。鉱区は山の斜面に位置し 排水が容易で 鉱床の水理地質条件は単純である。したがって 本鉱床の開発・利用条件は優れているというのが一つの結論である。

章午生

(中国地質報 1986. 5. 16)

XI 禄勳県で大型重晶石鉱床を発見

雲南省地質鉱産局第一地質大隊は 最近禄勳県の転竜で一大重晶石鉱床を発見し その鉱床の評価作業を行った。探査によって明らかになったところによると 鉱体はカンブリア系下部統の苦灰岩中に賦存し 特定の層準に発達し 厚さは3m前後である。

権方 愛林(中国地質報 1986. 3. 7)

XII 安化県で一大型重晶石鉱床を把握

湖南省地質鉱産局の地球物理探査隊は 最近 湖南省安化県劉家沖で標記鉱床を探査し 賦存状態を確認した。その品位は可採規準を満たしており しかも鉱量計算の結果によれば 鉱量(重晶石量)は1,000万tを越えている。

嚴欣耀(中国地質報 1986. 3. 14)

XIII 高密県で一大重晶石鉱床を把握

山東省第四地質隊は 同省高密県の化山で一大型重晶石を探査し その存在を確認した。この鉱床の規模は現在のところ 山東省最大である。この鉱床が把握されたことは 山東省の石油工業と化学工業の発展のために豊富な原料資源を提供することとなる。

孫立功(中国地質報 1986. 1. 3.)

XIV 江西省で一大稀土類鉱床を発見

江西省贛南地質調査隊は 最近 贛南地方の某県域内で埋蔵量10万tを越える一つの大型稀土類鉱床を探査・確認した。提出された探査報告書によると 当該鉱床の面積は11km² 主鉱体の延長は5,000余m 幅が2,000余m 鉱体の厚さが27mである。広い面積にわたって鉱体が地表に露出し その産状と形態は地形と一致する。鉱体は切れ目無く連続し 厚さの変化は比較的小さく 鉱化作用はほぼ均等で 現在江西省で探査・把握されている稀土類鉱床としては 最高クラスの品位のもの一つである。

劉明石(中国地質報 1986. 9. 29)

XV 広東省で重稀土類鉱床を把握

広東省地質鉱産局の物理探査隊は 乳源県の寨背頂でイットリウムの地球化学的異常部の精査を行った際に 広東省では初めての花崗岩風化殻イオン吸着型重稀土類鉱床を確認した。この鉱床は 中型に属するものと思われる。

范成渝(中国地質報 1986. 2. 21)